

## Exercise\_d2:深い海洋に関する問題 2

♪ カッコ内の語句の中で最も適切なものはどれか答えなさい。

1. Google earth で表示されている海底地形の大部分は、(マルチビーム測深器、人工衛星アルチメトリ、測深索)によって取得されたもので、空間分解能は(100m、200m、1000m、2000m)程度である。
2. 音響測量技術の発達の際には、大正元年に沈没した(威臨丸、エリザベス号、タイタニック号)沈没の影響がある程度ある。
3. 音波を使った測量システムは、英語で sound navigation and ranging となり、一般には(レーダー、ソナー、GPS 測量)と呼ばれている。類似の測量原理を(サメ、イルカ、クラゲ)が使っているのは有名だ。
4. 海底地形が認識されるようになると地球表層部の形成過程が理解されるようになり、(地層累重の法則、プレートテクトニクス理論、ビックバーン理論)で体系化された。そもそもその理論の根幹を提唱したのは、(アルベルト、スベルト、アルフレッド)・ウエゲナーで、(明治元年、大正元年、昭和元年)の1912年に発表された“大陸と海洋の起源”を著した。
5. 海面から海底までの距離が100mであった場合、水深は(-100、100、120) mと言い、その距離を測ることを測深(sounding, hearing, listing)と呼ぶ。
6. 海洋は、地球表面の(2、3、4、5、6、7)割を覆うことが出来ない。
7. 各国の海洋進出が始まると海の所有権に関してコンセンサスが必要となった。フーゴ・グローティウスは、自由海論の中で、(領海、接続水域、公海、排他的経済水域)の概念を示した。最近では、沿岸国の資源保護の観点からEEZが重要となってきており、その範囲は領海基線から(3、12、200)海里の範囲となる。日本は、(政治力、経済力、離島)の存在でEEZ面積が世界で(4、5、6)番目に広い国となっている。
8. 地球表層部の凸凹を表したグラフは、(面積高度曲線、高度面積曲線、高面積度曲線)の図と呼ばれ、最近の統計では水深が6500mを越える地域は(0.16、1.6、16)%であり、逆に標高が2100mを超える地域は(1%、2%、3%、4%)と見積もられている。
9. 日本の地図における海拔0mは、東京湾平均海面とよび(T.T.P T.P. T.P.O)と表す。